

仔犬のかみ癖

1. 仔犬が咬むのは自然な行動です。

2-3ヶ月齢の仔犬を連れてはじめてワクチン接種のために動物病院に来られた飼育者の方のほとんどが「よく咬んで困ります。」とか「いろいろなものをかみます。」とおっしゃいます。しかし、この頃の仔犬はそれが普通なのです。我々獣医師はそうであればかえって心配です。

同時にこの時期は仔犬に強く咬んではいけないことを教えるために大切な時期でもあります。咬まない仔犬に咬んではいけないことを教える事はできませんからこの時期にはむしろ咬んでくれた方が良いでしょう。ただし永久歯が生える6ヶ月頃までに強く咬んではいけないことをきちんと教える必要があります。

本来ならまだ母親や兄弟姉妹と一緒に過ごすはずのこの時期、仔犬たちは母親にじゃれてかみついたり、お互いに追いかけてこしたり、取っ組み合いや咬み合うものです。そうすることによって咬まれると痛いこと、あまり強く咬むと母親に「ウーッ」と低い声で叱られたり、兄弟姉妹が「キャンキャン」と言って逃げていってしまい、遊んでももらえないことなどを学んでいきます。

しかしながら現在多くの仔犬はこの時期に母親や兄弟と離れて人間の家族の一員となるわけです。そこで仔犬は今度は人間を母親や兄弟に見立ててじゃれたり咬んだりしはじめます。ところがたいていの飼い主さんはこの仔犬の行動がよく理解できません。間違った反応で仔犬をますます手におえなくしてしまうこともあります。

2. 誤解を生む飼い主の反応と間違った躰

では具体的にどのような反応が仔犬の誤解を生むのか考えてみましょう。

小さな子供に多いのはかん高い声で「きゃーきゃー」騒いだり、仔犬の相手になって応戦してしまう場合です。かん高い声は仔犬を興奮させてしまいますし、相手をしてもらうと、遊んでいる気分ですますますこの遊びが大好きになってしまいます。

女性に多いのは「痛い！やめてー！」とやはり騒ぎながら押しのけたり、軽いおしおきをする事です。やはり仔犬はかまってもらっていると勘違いして、ますます喜んでしまうのです。

騒いだり、軽くたたいたりする事は仔犬にとっては罰にはなりません。仔犬は少々痛みには無頓着ですし、飼い主に注目されている事が反対に仔犬にとってのご褒美になってしまうのです。

こんな時、男性なら低い声で「こらっ！」と叱ってガツン強く殴るかもしれません。この方法は間違っているにもかかわらず大変効果的です。もう二度とこの人には咬みつかないかもしれません。では何故この方法が間違っているのでしょうか？ 仔犬は「この人は咬むと怒るからやめた方がいいぞ。でも他の人は大丈夫。」と覚えてしまうのです。お父さんには咬まないけれどお母さんや子供に咬みつく犬というのはよく聞く話です。こんな風に育ててしまうと強そうな人には咬まないけれど小さな子供や



女性、高齢者などに攻撃をしかける犬になってしまうかもしれません。

それではみんなでガツンと殴ったらどうでしょう？ 昔の犬のしつけではとにかく徹底的にやれなんてよくいったものです。ただ遊びたくてうれしそうにじゃれてきた仔犬にみんなでいきなりガツンと思いきり殴ったらどうでしょう？ 心から人間が信じられなくなるのではないのでしょうか？ 強い体罰を与えられて育った仔犬は人間不信になったり、ハンドシャイといって人が手を近づけるだけで殴られると勘違いして逃げたり、咬みついたりするようになります。特に臆病な性格の犬ではますますその傾向が強くなり大変扱いにくい犬になってしまいます。

最も危険な事は、もしこの仔犬が支配欲の強い性格だった場合、体罰に反抗してうなったり、咬みついたりするかもしれません。その時飼い主がちょっとでも怖がったり、うろたえたりすれば仔犬はうなったり、咬んだりすれば思い通りになると学習してしまいます。その結果大変な問題犬をかかえることになるのです。仔犬がとても安定した穏やかな性格の持ち主なら少々体罰を与えても問題なく育つかもれません。でもそのような性格の仔犬ならもともと体罰なしで楽にしつけることができます。そして体罰を与えない方がのびのびとより明るい性格に育つのです。

3.正しいしつけ方

それではどんな人でも簡単にできて、効果的で、かつ副作用もない方法とは？

エネルギーのはけ口を作る

まず仔犬にエネルギーのはけ口を作ってやります。この頃の仔犬はとにかくエネルギーがありあまっているのです。まずそのエネルギーを押さえつけるのではなくどンドン吐き出す方法を考えます。そうすることによって飼い主に咬みついてくる頻度を少しでもへらします。咬みたいという本能を満足させてあげるために咬むためのおもちゃ（コング・ナイラボン・ガムなど）を与えて一緒に遊んであげましょう。ボールを投げて持ってこいをさせる、思いっきり走らせるなど違った方向にエネルギーを向けさせるのも良いでしょう。また、できれば同じ年頃の仔犬と遊ばせたり、性格の良い成犬と遊ばせるのも効果的です。この事は同時に、他の犬に慣れさせたり、犬同士のつきあい方を学ばせる意味でも大変良いことです。

このようなはけ口を作らずにただ仔犬に咬む事をやめさせようとしてもなかなかうまく行かないばかりか仔犬が欲求不満になったり、別のいたずらを始めてしまいます。

力を入れて咬んではいけないことを教える

仔犬がじゃれてきたら今までどうり一緒に遊んであげます。ただし、仔犬が手や足に咬みついてきたら気をつけます。仔犬が力を入れて咬んだ瞬間に「痛い！」と大声で叫びます。そしてそのまま仔犬

から離れてしばらくの間無視します。仔犬は最初何のことか理解できずにボカンとしたり、おかまいなしにまたじゃれついてくるかもしれません。それでも家族全員が同じように対処すれば、間もなく「強く咬むと遊んでもらえない」ということを理解し始めます。

私達人間も人に無視されたり口をきいてもらえなかったりするととてもつらい気持ちになります。この無視、すなわち交流を絶ってしまうという方法は人間と同じように社会性の強い動物である犬にはとても効果的な罰となります。しかもこの罰は誰にでも簡単にできて、体罰のような副作用はありません。

仔犬が強く咬んではいけないことを理解できたら、少しずつ優しく咬むことを教えます。仔犬がほんの少しでも力を入れて咬んできたなら、痛くなくても「痛い！」と言ってやめさせます。このようにし



て仔犬に少しずつ咬むことをやめさせます。

このペーパーは株ベツト・ベツト社が提供する

PET LOVERS' FORUM (<http://www.pet-vet.or.jp>)で、もみの木動物病院 村田香織先生が提供されたものを一部改編して作成しております。

イラスト著作：くぼじょうこ

このペーパーは下記当院のインターネットホームページで24時間無料で取り出せます。また、ホームページには他にも様々な情報が掲載してありますので、ぜひご覧ください。



Copyright (C) 2001 Tatsuya Fukuyama DVM, AFP IKI ISLAND VETERINARY CLINIC.
Tel 0920-47-6767 Fax 0920-47-0350 e-mail: foffice@bronze.ocn.ne.jp
<http://www.ikikoku.com/pet.html>